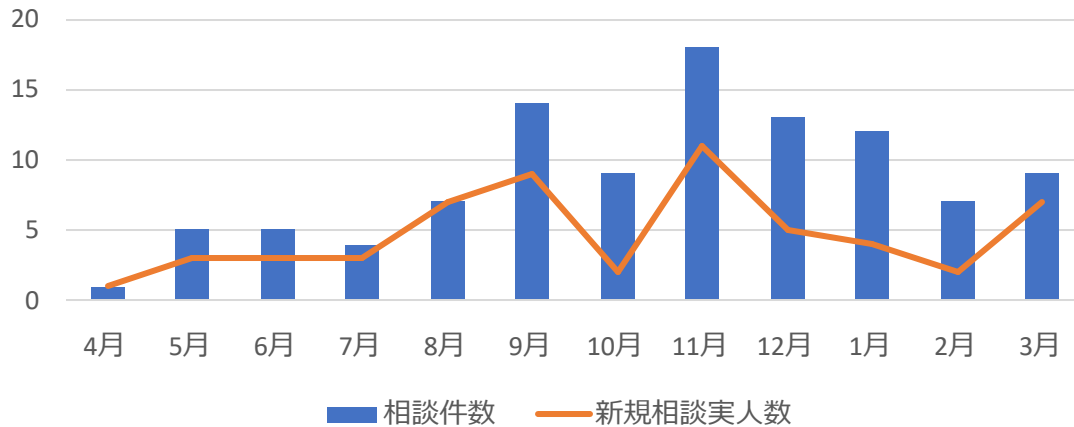


WORK!DIVERSITY in みやぎ モデル事業 実績報告

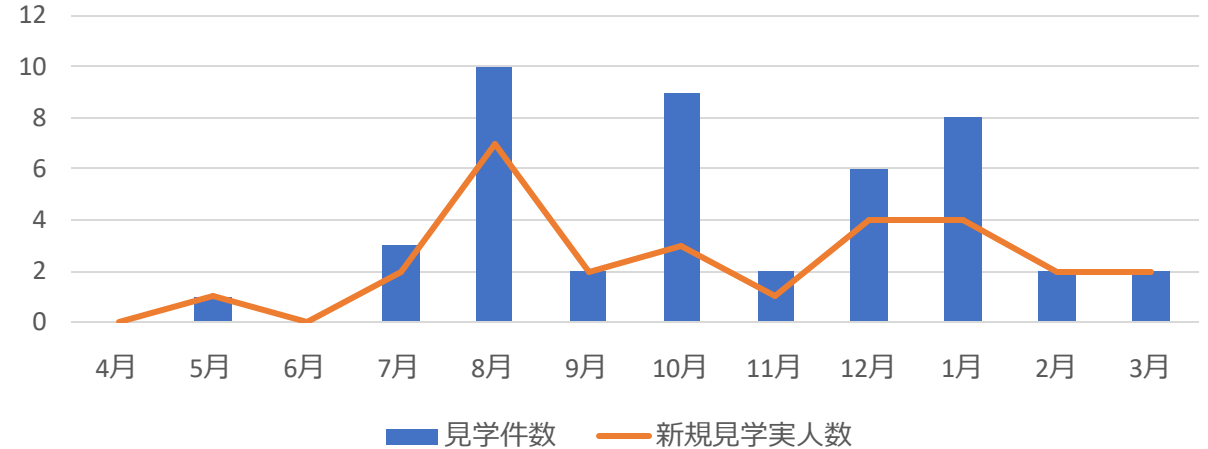
働きづらさを抱える方が活躍する地域へ

事業の利用状況（利用件数・人数）

相談件数：104件（実人数57名）

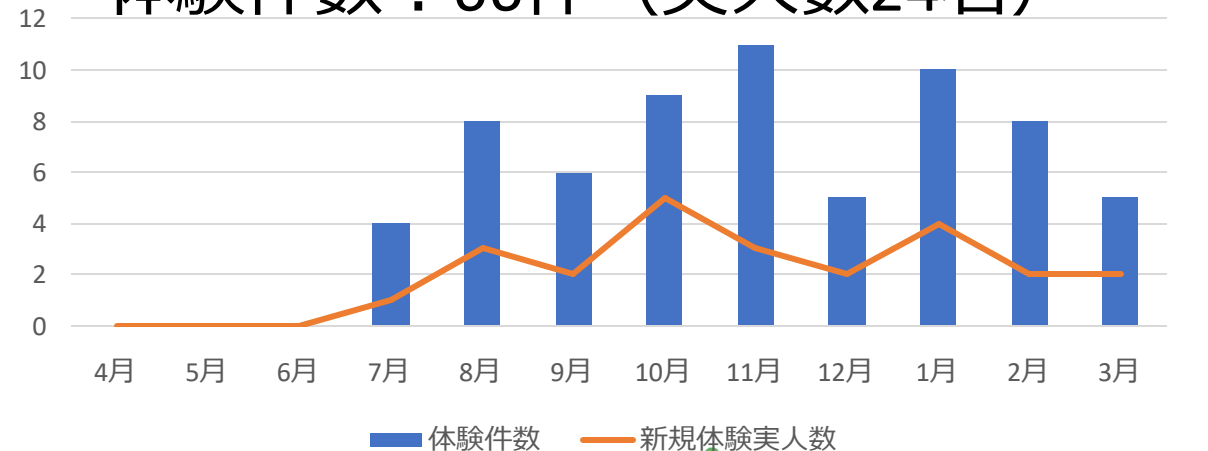


見学件数：45件（実人数28名）



相談件数、実人数は広報媒体（TVニュース、河北新報、県政みやぎ）に取り上げらるとその影響で増加。見学件数、実人数は9月以降横ばいであるが、体験件数、実人数は見学実績を上回っており、見学→体験への移行がスムーズになり、複数見学のケースが減ってきていることが要因と思われる。12月体験件数減少はインフルエンザ等感染症の影響で実施が延期になったもの。

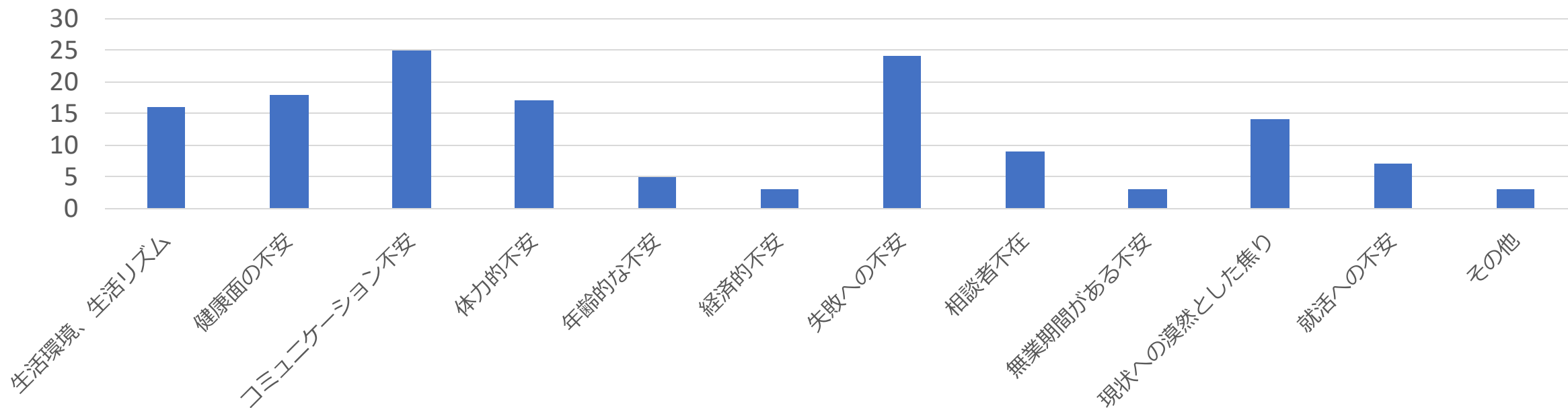
体験件数：66件（実人数24名）



事業の利用状況（来所時困難）

相談実人数：57名の内訳

受付時点の困り感



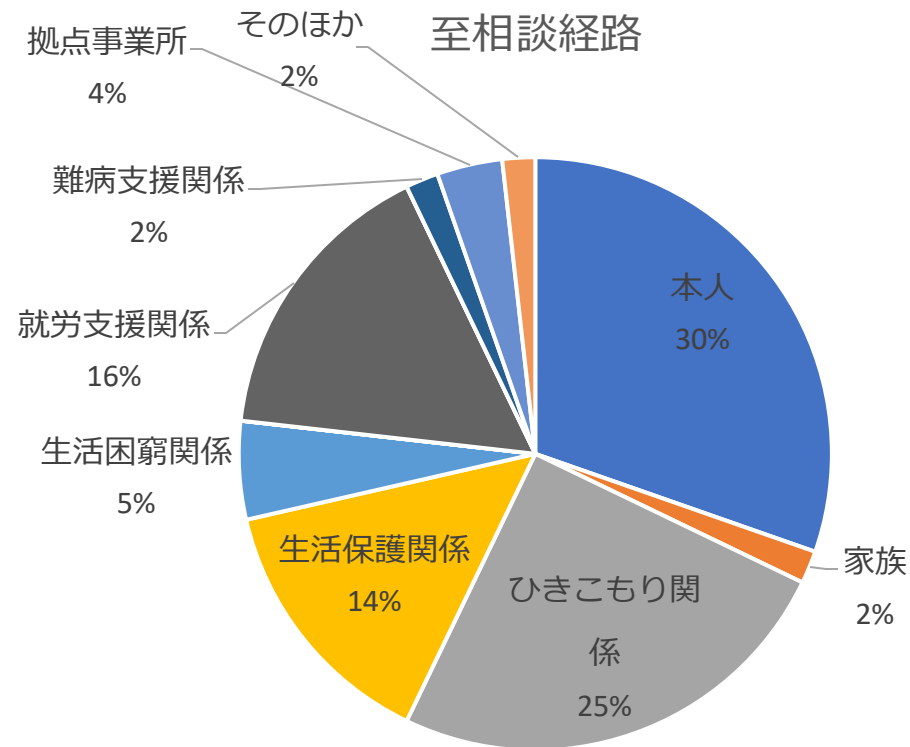
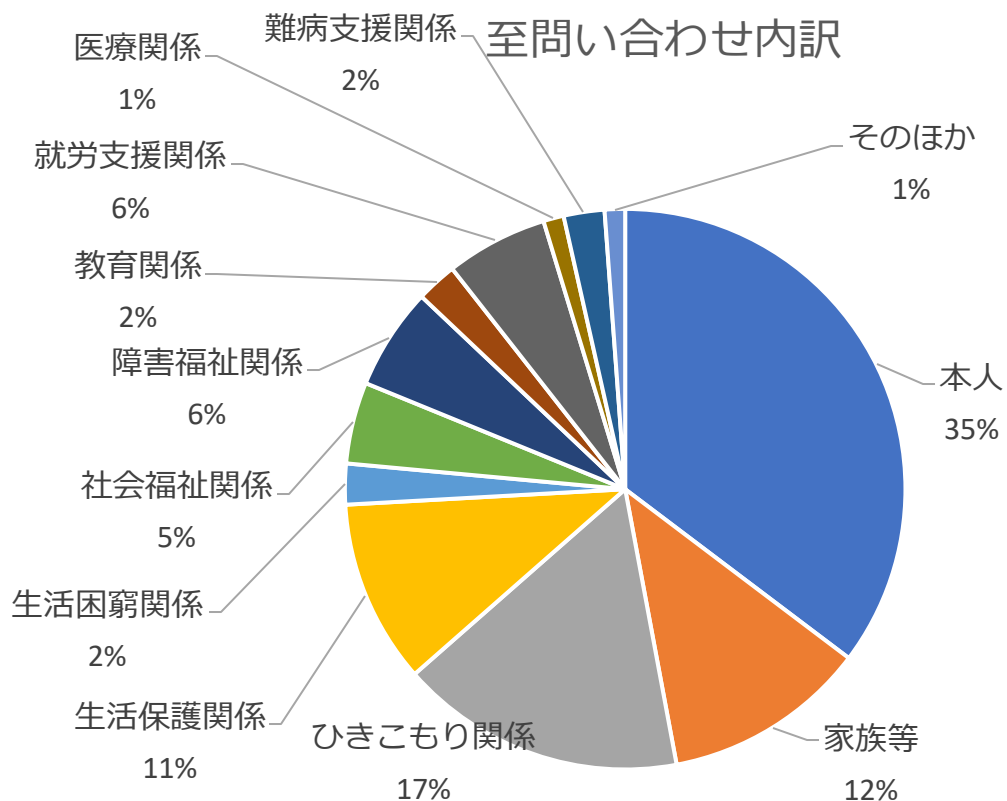
本人の困り感としては「コミュニケーションへの不安」「失敗することへの不安」が多く、次いで「健康不安」「生活環境・リズム」となっている。

聞き取りを進めると過去の対人関係での失敗から動けなくなっていることや、ひきこもり状態に陥ってから健康不安が増大、生活環境・リズムが乱れている状況がある

利用状況（ヒアリングより）

- 相談受付時には「コミュニケーションが苦手」「対人不安」という主訴が多く、多くのケースで共通しているが、見学や体験に向けて面談を進め整理していくと「就労や就活のイメージが全くないので何をしたいかわからない」という課題に行き当たることが殆どである
- リファ元からの分類からは「生活困窮状態」「難病」というリファ時状況は読み取れるものの、面談で詳しく聞き取るとどこかのタイミングで社会との接点を失う「ひきこもり」状態を経ているケースが多くなっている

事業の利用状況（経路）



問い合わせについては本人からの直接問い合わせが最も多く約3割。続いてひきこもり支援機関が約2割。そこからは家族、生活保護関係課...と続いている。実際の相談まで至っているのはひきこもり支援機関からが最も多く約3割弱、次いで本人直接、生活保護関係課、サポステ等就労支援機関である。

ウェブ広告実施の1月末～は本人が直接情報を得て来所が増えた結果が反映された状況。

事業におけるアセスメントツール



「KPSビジュアライズ
ツール」で
利用者の変化を
「見える化」しませんか？

- ✓ 利用者自身が
評価を実施
- ✓ 支援の蓄積が可能
- ✓ 完全無料
登録だけで使える

※一般社団法人京都自立就労サポートセンター「KPSビジュアライズツール」公式WEBサイトより

<https://www.kyoto-ps.com/vt/>

KPSビジュアルアライズツール (GN-25) について

【GN-25評価シートの特徴】

- 自己認識の課題が分かる
- 何が不足しているかを**可視化**できる
- それぞれの項目について、現在のレベルを判断できる

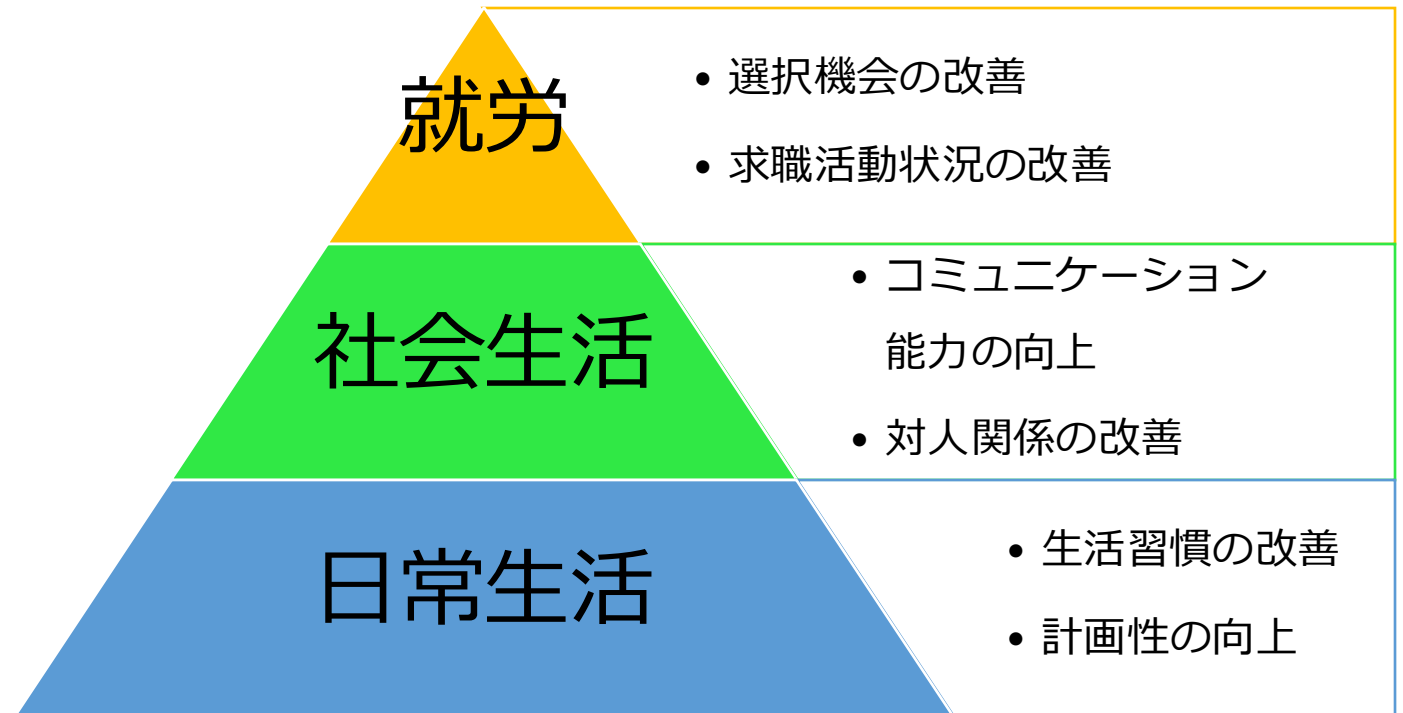


図1 GN-25評価シートの3つの評価の分類とそれを構成する評価の詳細（一部を抜粋）

アセスメント実施の流れ

GN-25評価シート

日常生活自立、社会生活自立、就労自立の
3つの評価の分類に分け、それらを10の
評価の詳細、さらに16の評価の指標に分
け、25の設問項目で構成
※支援員と本人がそれぞれ回答を行う。

GN-25 評価シート				
氏 名	記入日	年	月	日
状況を選択	【 就労状況 : <input type="checkbox"/> 就労中 <input type="checkbox"/> 無職 】	支援員名		
	4: そう思う	3: だいたい そう思う	2: あまりそ う思わない	1: まったく そう思わない
1. 就寝、起床時間がばらばらである	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 規則正しく食事をとっている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 約束の時間を守り行動することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. その場に応じた身だしなみができている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 健康状態は良好である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. プログラムに休まず参加することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 感情のコントロールができており、イライラしたり 落ち込んだりせずに安定した気持ちで過ごすことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

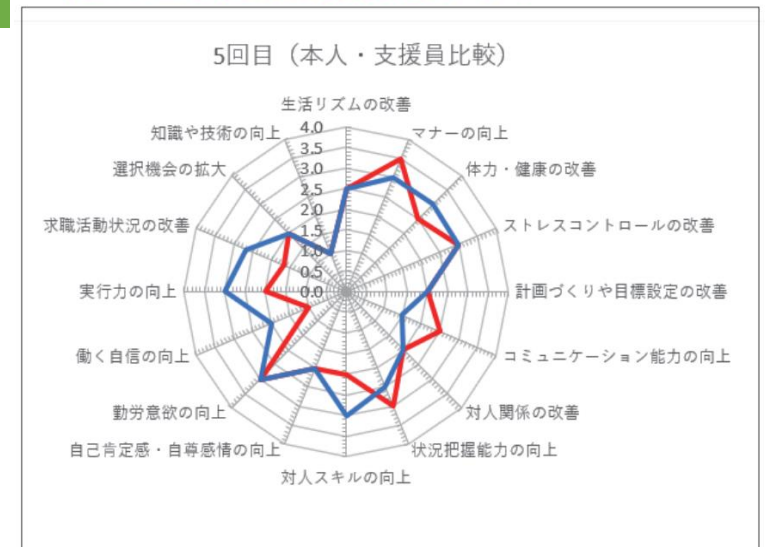
定期
実施

グラフ化して
面談で活用

* (GN-25) 本人評価グラフ

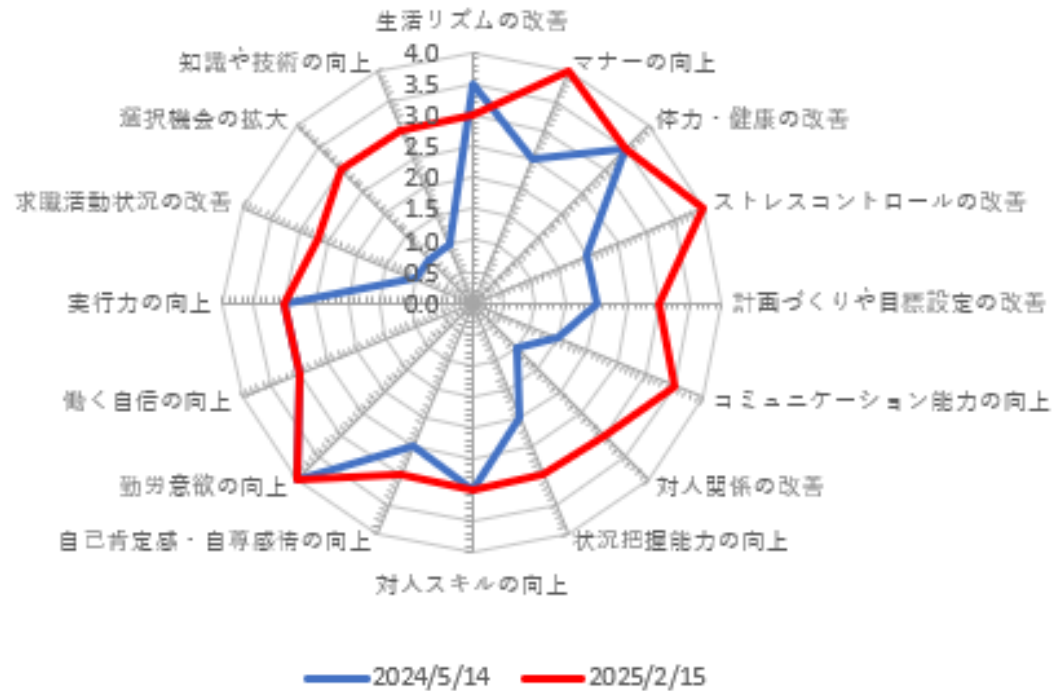


* (GN-25) 支援員評価グラフ



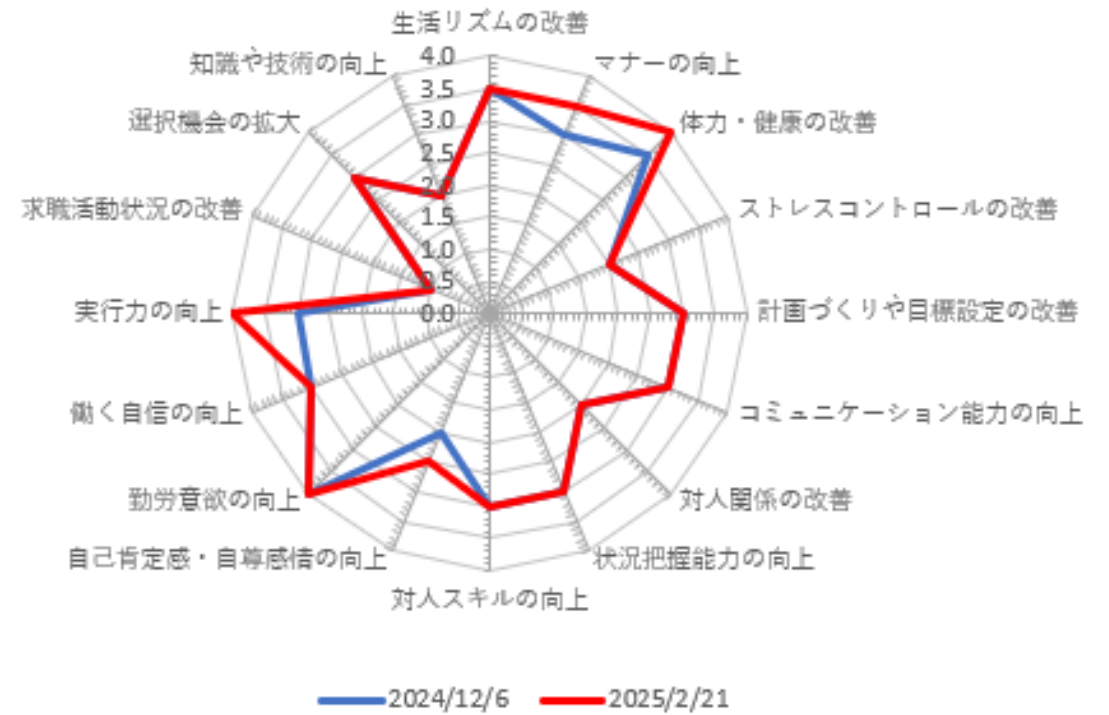
利用状況（GN-25本人評価グラフ一覧）

1回目と7回目の比較



Aさん（28） 男性

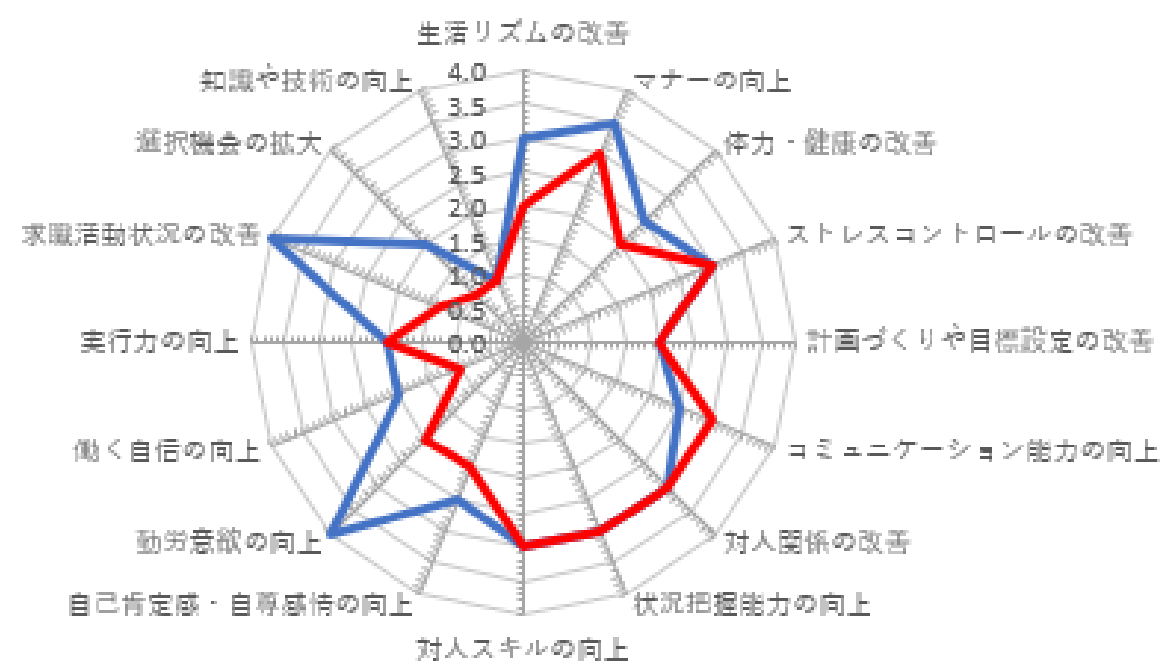
1回目と4回目の比較



Bさん（29） 女性

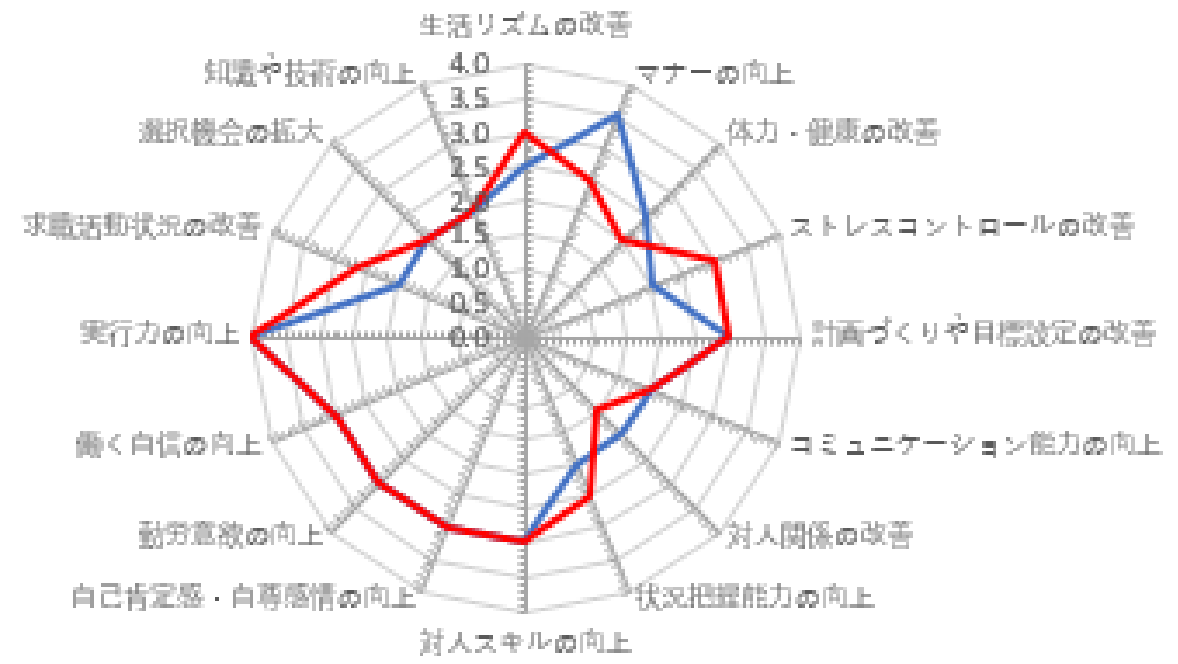
利用状況（GN-25本人評価グラフ一覧）

1回目と7回目の比較



2024/9/2 2025/3/6
Dさん（55） 男性

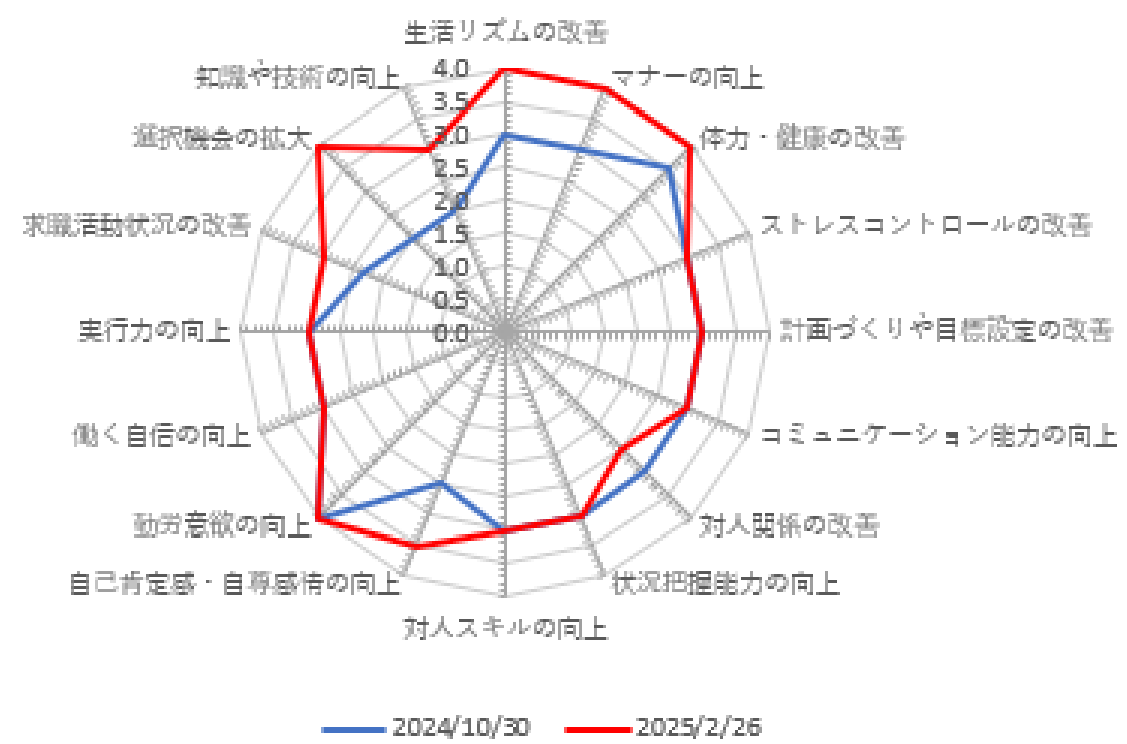
1回目と6回目の比較



2024/10/22 2025/3/6
Eさん（51） 男性

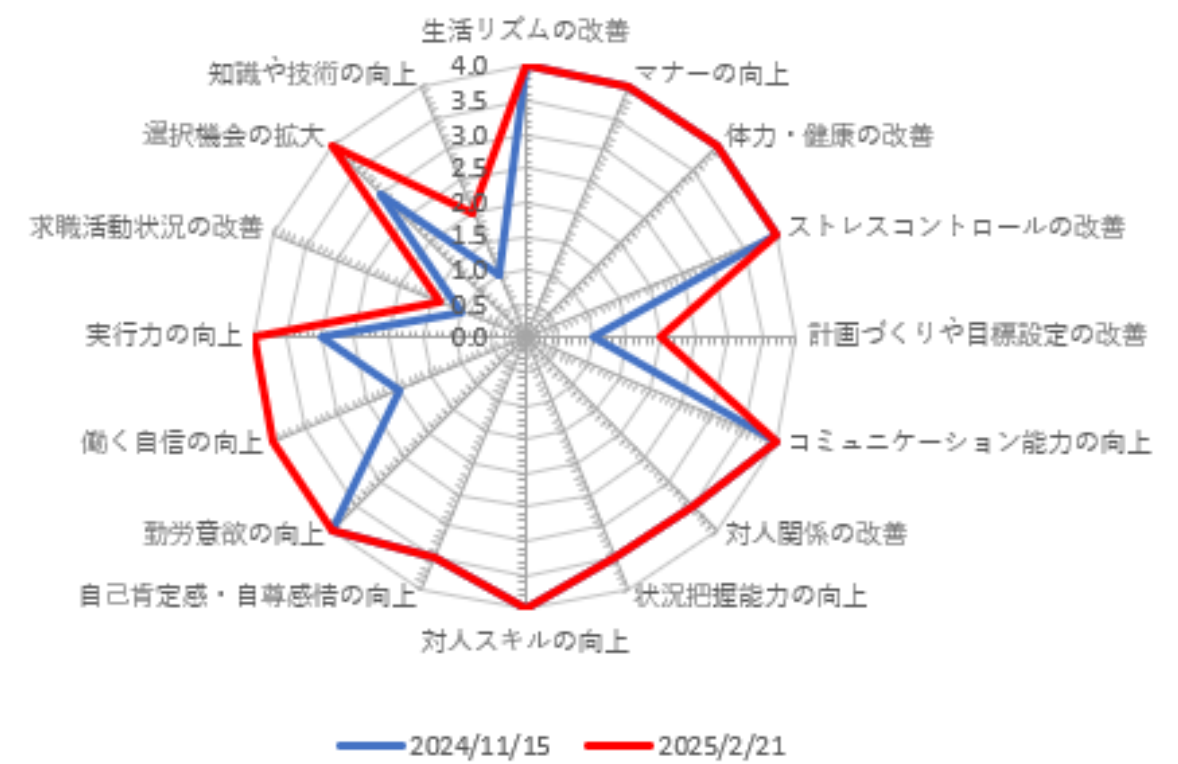
利用状況（GN-25本人評価グラフ一覧）

1回目と5回目の比較



Fさん（29） 男性

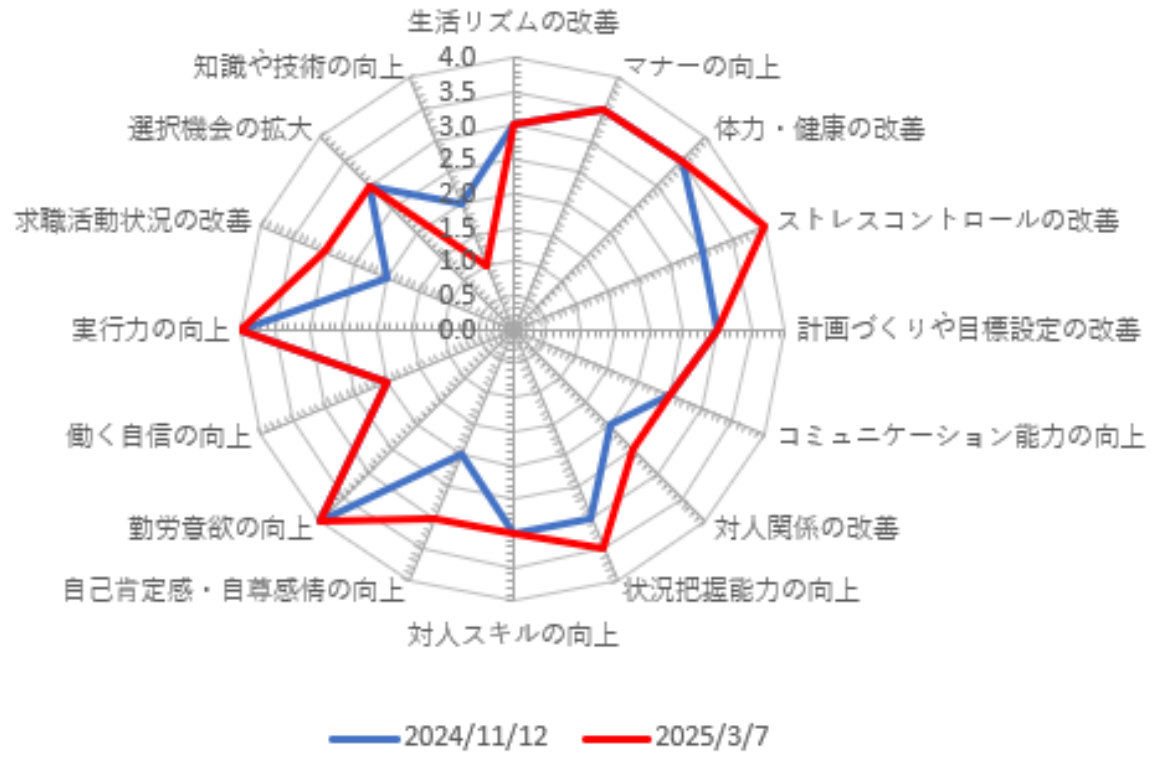
1回目と5回目の比較



Gさん（26） 男性

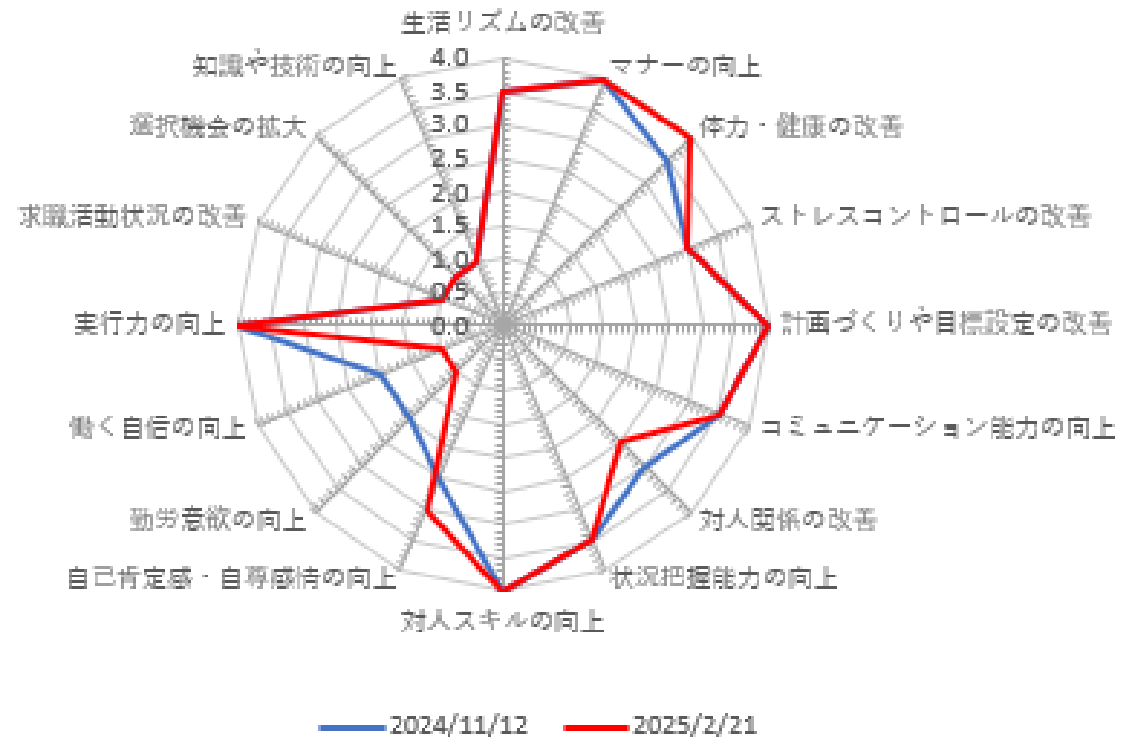
利用状況（GN-25本人評価グラフ一覧）

1回目と5回目の比較



Hさん（43） 男性

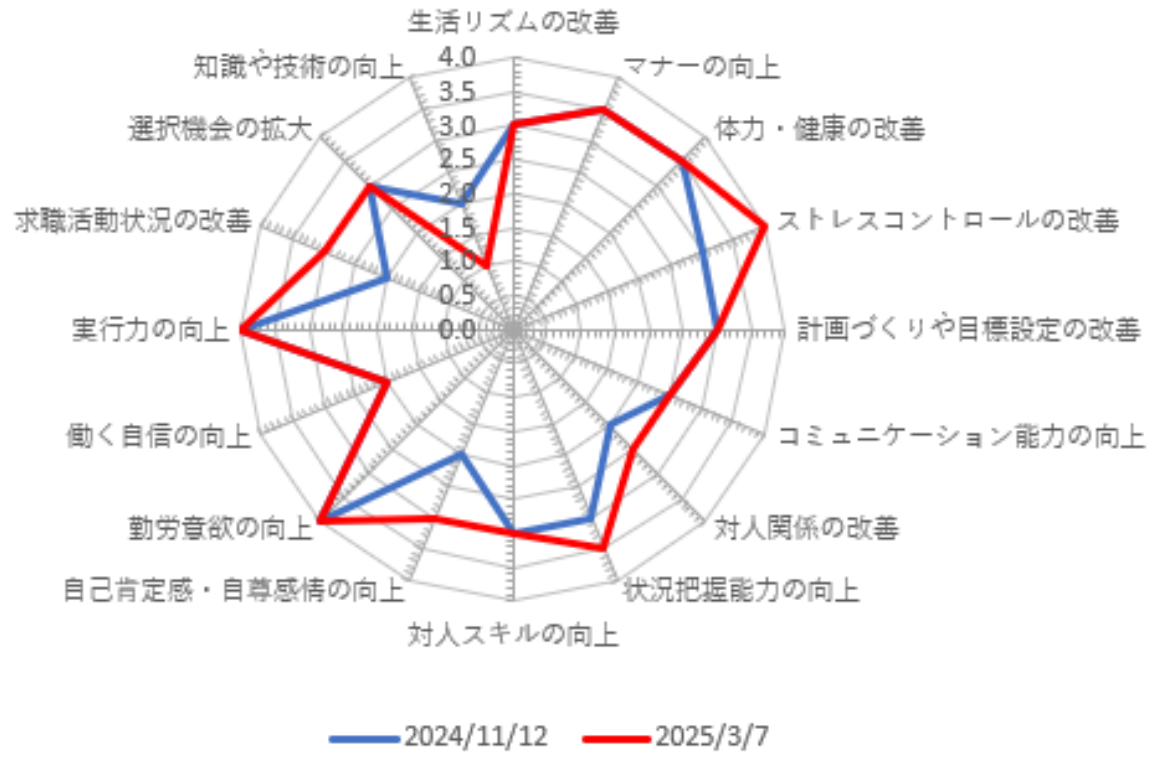
1回目と5回目の比較



Kさん（41） 女性

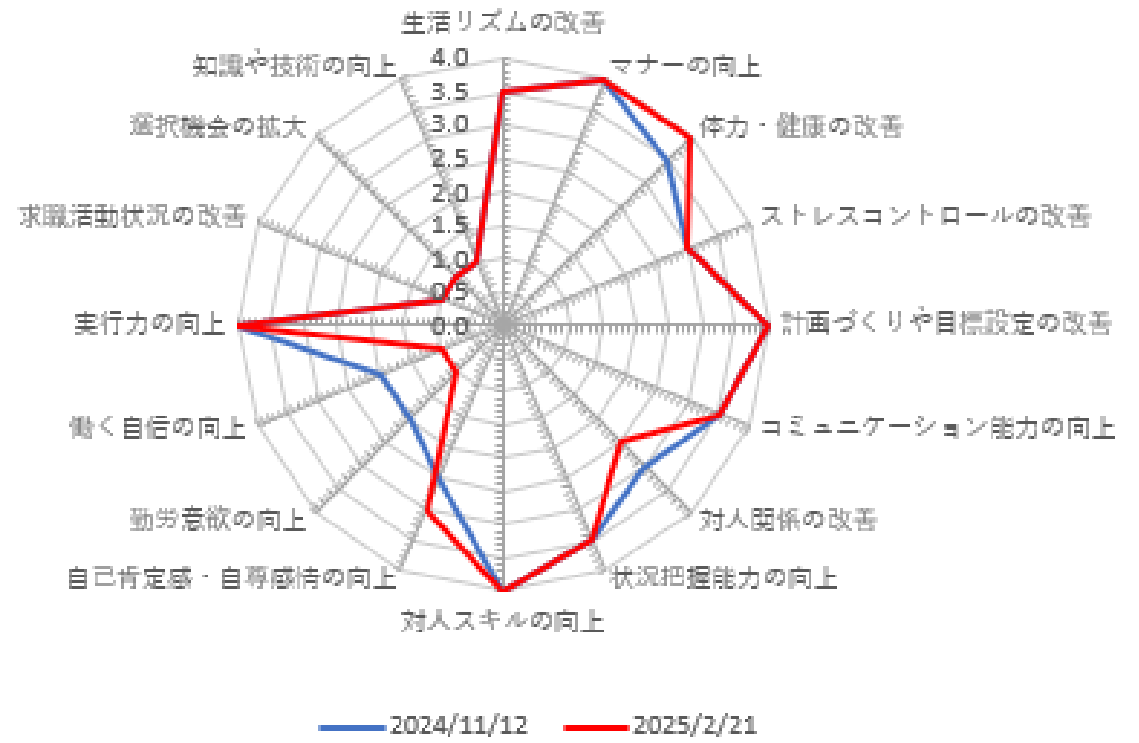
利用状況（GN-25本人評価グラフ一覧）

1回目と5回目の比較



Hさん（43） 男性

1回目と5回目の比較

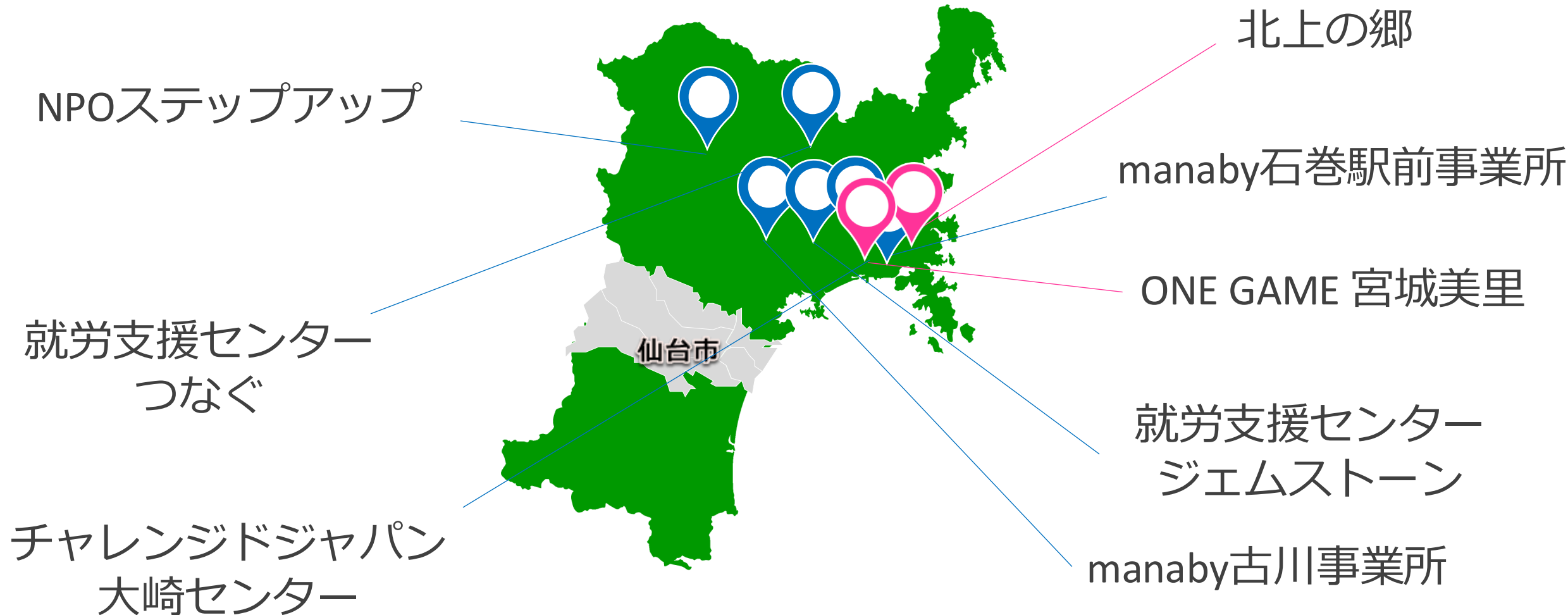


Kさん（41） 女性

拠点事業所登録状況

地域	移行支援事業所	A型事業所	B型事業所	登録 事業所 合計
仙台市以外	6 件 (多機能含む)	1 件	1 件	8 件
仙台市	1 3 件 (多機能含む)	1 件 (多機能含む)	8 件 (多機能含む)	2 2 件
宮城県全体	1 9 件 (多機能含む)	2 件 (多機能含む)	9 件 (多機能含む)	3 0 件

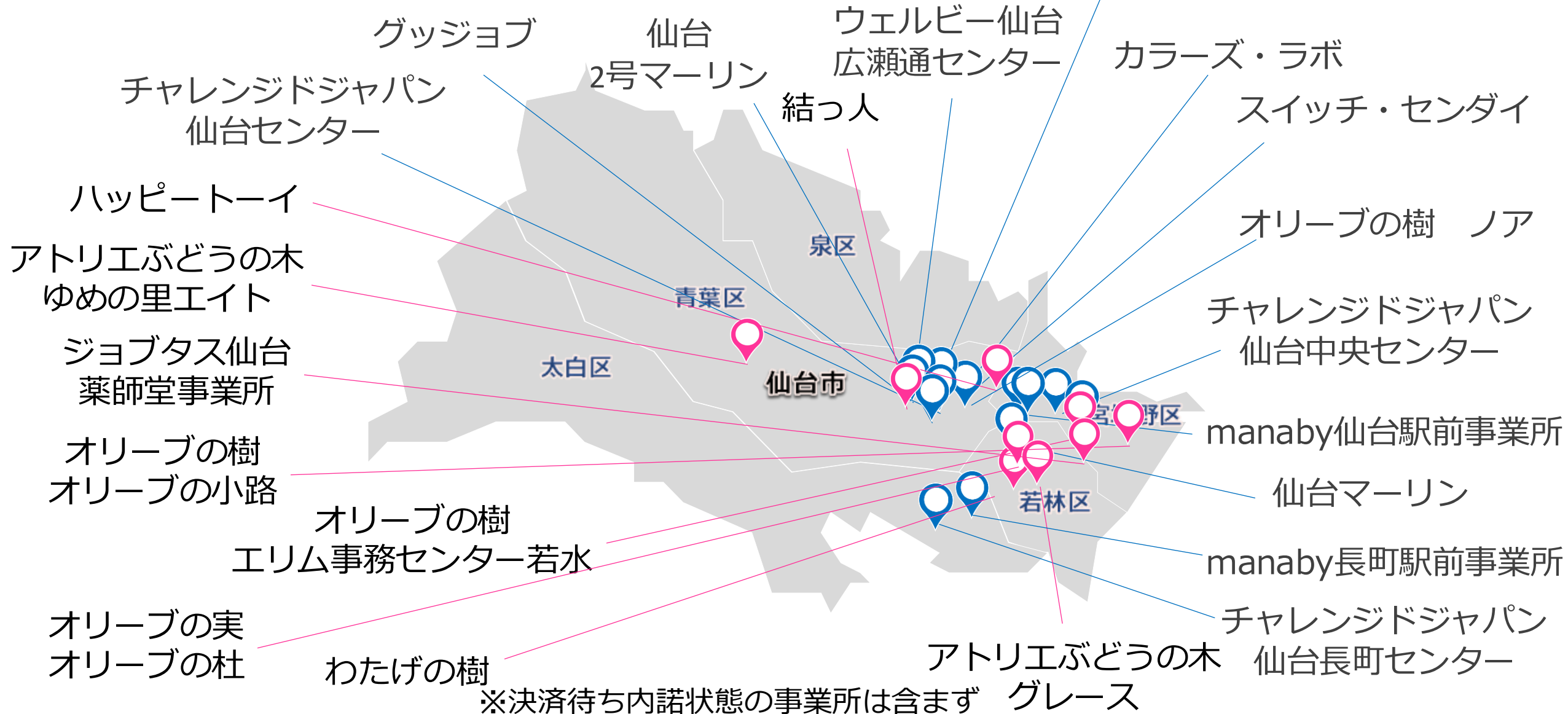
拠点事業所一覧（仙台市以外）



※決済待ち内諾状態の事業所は含まず

拠点事業所一覧（仙台市）

就労支援センターほっぷ



※決済待ち内諾状態の事業所は含まず グレース

ネットワーク会議実績

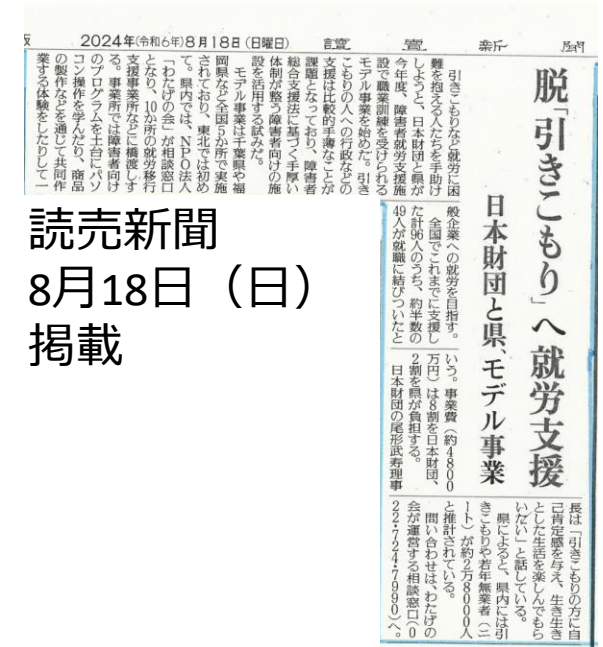
- ◆2024年6月14日 ネットワーク会議（オンライン）
拠点事業所を中心に15名にて、事業の概況、利用の流れ等の確認を中心とした内容
- ◆2024年10月30日 ネットワーク会議（対面）
関係機関約50名にて、上半期実績、事例等の報告を中心とした内容
- ◆2025年2月25日 ネットワーク会議（ハイブリッド）
関係機関約50名にて、年間実績、当事者からの事例報告、今後の展望についての提案等の内容

広報（ニュース、新聞）



ミヤギテレビ公式ホームページ
2024年7月17日 20:00
<https://news.ntv.co.jp/n/mmt/category/society/mmc9bced9a99244ed9ce67a8da1a0f28a>
より引用

河北新報
7月22日（月）
掲載



読売新聞
8月18日（日）
掲載

広報（広報誌、フリーペーパー）



県政みやぎ
2024年11月・12月号
より引用
※県内100万部発行

河北ウィークリー
2024年11月28日号
より引用
※県内42万部発行



働きづらさを抱える、あなたの就労を支援します！（WORK! DIVERSITYモデル事業）

「らしくワークサポーター」では、障害者手帳や障害福祉サービス受給者証を持って
おらず、さまざまな「働きづらさ」を抱える方を対象に、就労支援を行っています。
体調や心の状態に合わせて、就労に向けた支援やトレーニングが受けられます。



このような方はいませんか？

- 長期間ひきこもっていたので、社会活動に対する不安が強い
- メンタルの不調などにより通院中で、働く自信がない
- 卒業・中退後の就労経験がなく、社会に出るのが怖い
- いつの間にか社内でトラブルになり、離転職を繰り返している
- 体調面に不安があり、体力的に働けるか不安である

働きづらさを抱える方

- ひきこもり
- ニート
- 生活困窮者
- 刑余者
- 指定外難病者 など



らしくワークサポーター利用の流れ



● りしくワークサポーター ☎022(724)7990 (平日 午前10時～午後5時)
● 障害福祉課 ☎022(211)2541



らしくワークサポーター

太白区

自分らしい働き方を



「らしくワークサポーター」は「働きづらさ」を抱える
人に寄り添い、就労を支援する伴走型の事業窓口。ま
ずは相談を受け付け、その人に合ったトレーニングがで
きる就労支援事業所へつなぐ。対象は原則、現在無業
状態で「働きたい」という意思があり、障害者手帳また
は障害者福祉サービス受給者証を取得していない人
に限る。この事業は日本財団助成、宮城県補助を受け
たWORK! DIVERSITYモデル事業となっている。

太白区長町1-7-38-203
ws@rashiku.info



TEL022-724-7990
(平日10:00～18:00)



https://rashiku.info/

広報（直近状況）

- 河北新報 1月21日（火）アドハilight欄にて掲載
- 「仙台つーしん」にて2月20日に記事掲載
- 2月にかけて、Google、Meta、LINE、X（Twitter）、InstagramにてWeb広告実施

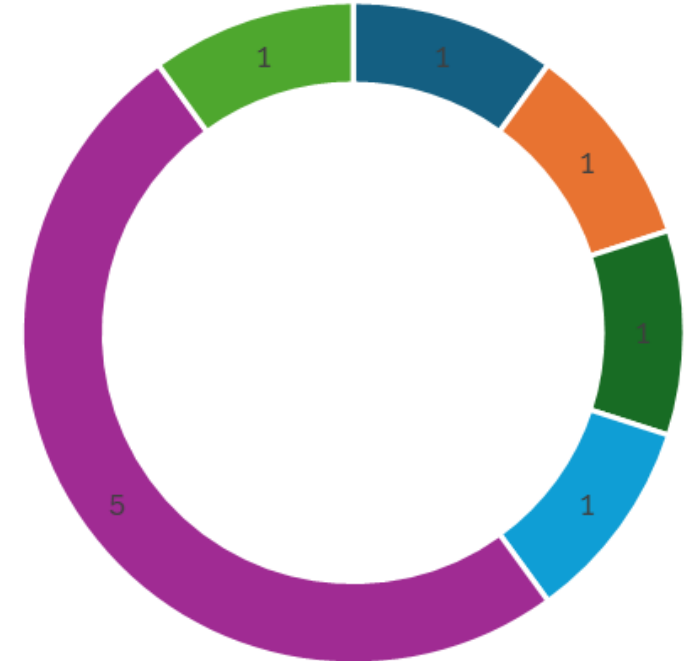
広報実績（相談につながった割合）

10月に掲載された
県政だよりを見て
相談につながった事例が最も
多く5件

（問い合わせ数は10件）
その他は設置パンフレット、
ニュース、新聞、看板、SNS
が1名ずつと続く

媒体別相談者割合

- （パンフレットを見た）
- （ニュースを見た）
- （新聞記事を見た）
- （看板を見た）
- （県政だよりを見た）
- （SNSを見た）

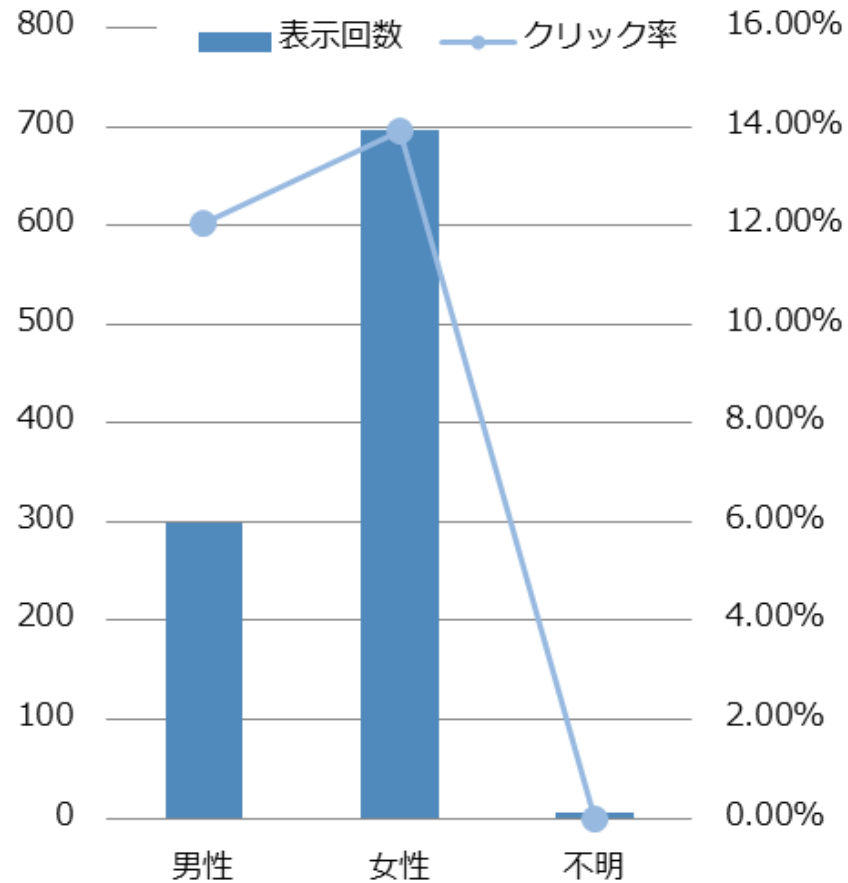


Web広告実績 (HPへの誘導を目的 Web広告全体)

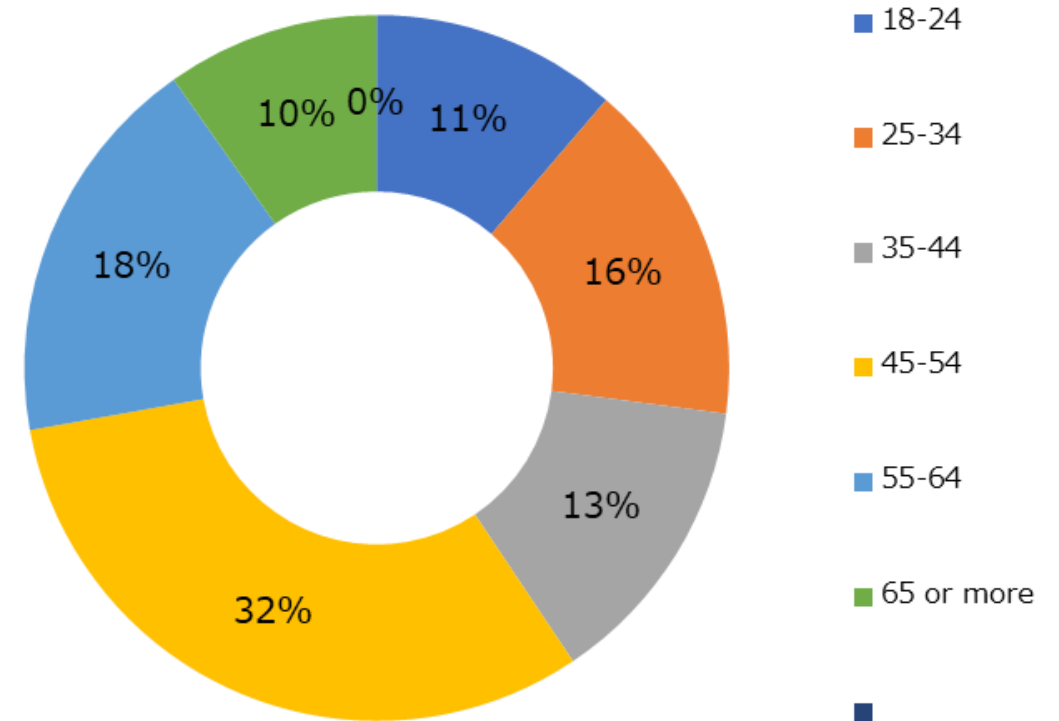
媒体	表示回数	クリック数	クリック率
Google広告	1,002	133	13.27%
Google広告 (ディスプレイ)	117,227	426	0.36%
Meta広告	217,880	1,336	0.61%
LINE広告	200,035	5,756	2.88%
合計	536,144	7,651	1.43%

※2/1～2/12分抽出データ

媒体別広報実績（Google広告内訳）

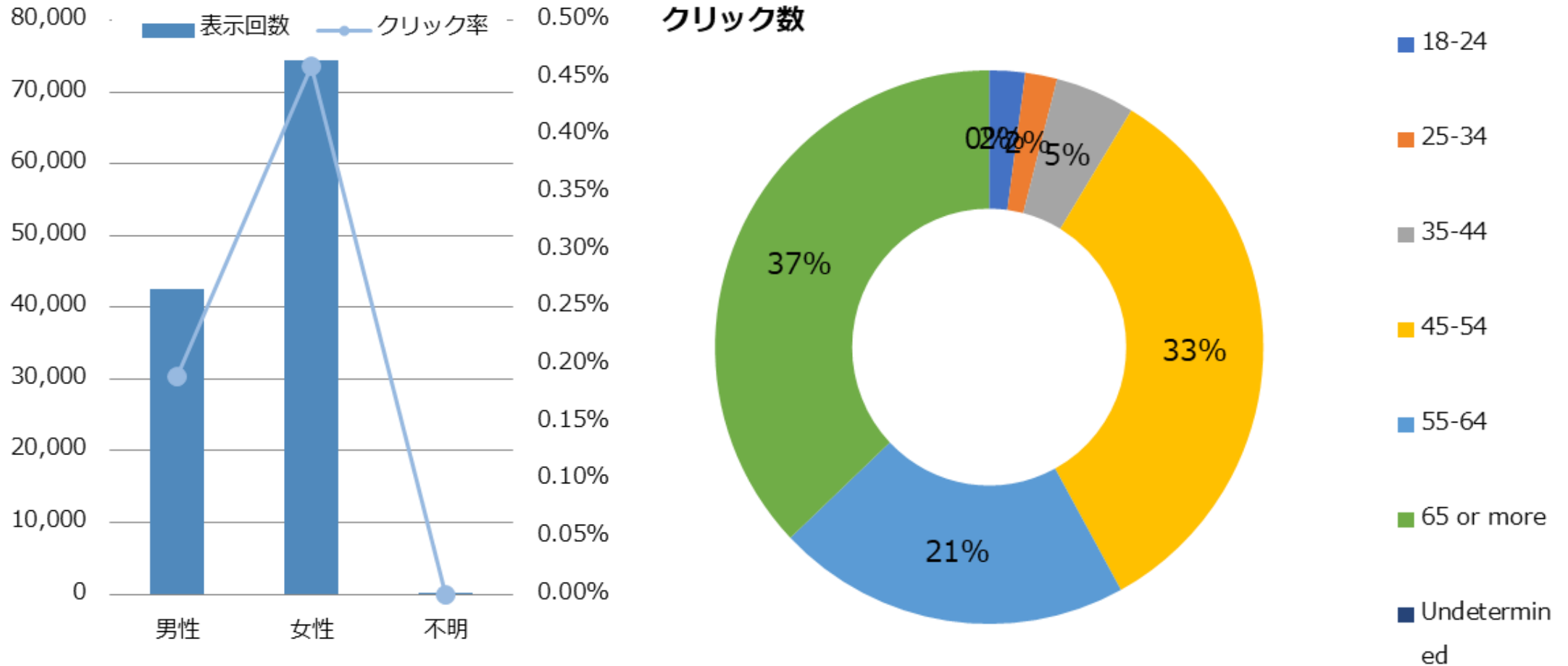


クリック数



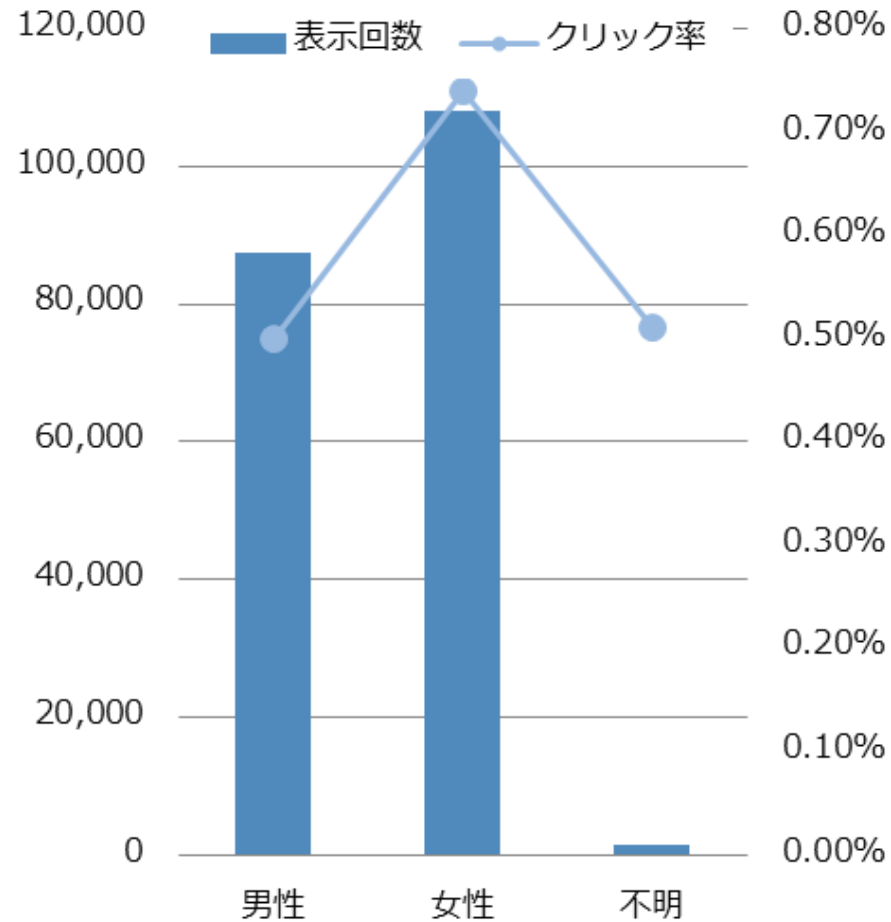
※2/1～2/12分抽出データ

媒体別広報実績 (Google広告・ディスプレイ内訳)

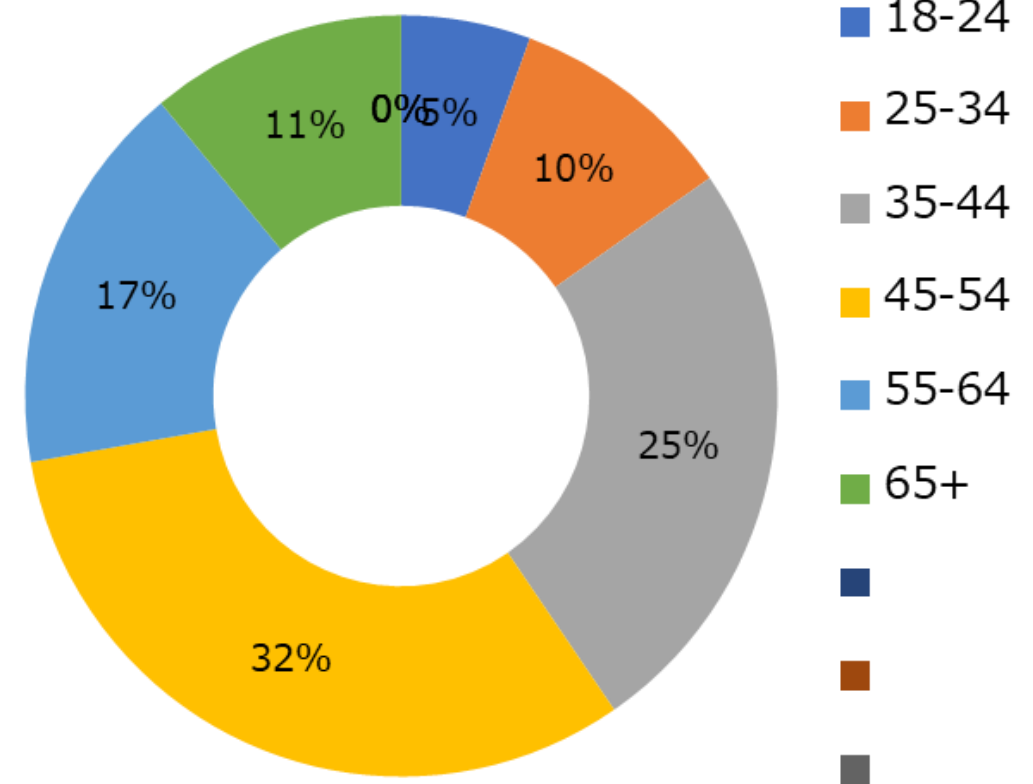


※2/1～2/12分抽出データ

媒体別広報実績 (Meta広告内訳)

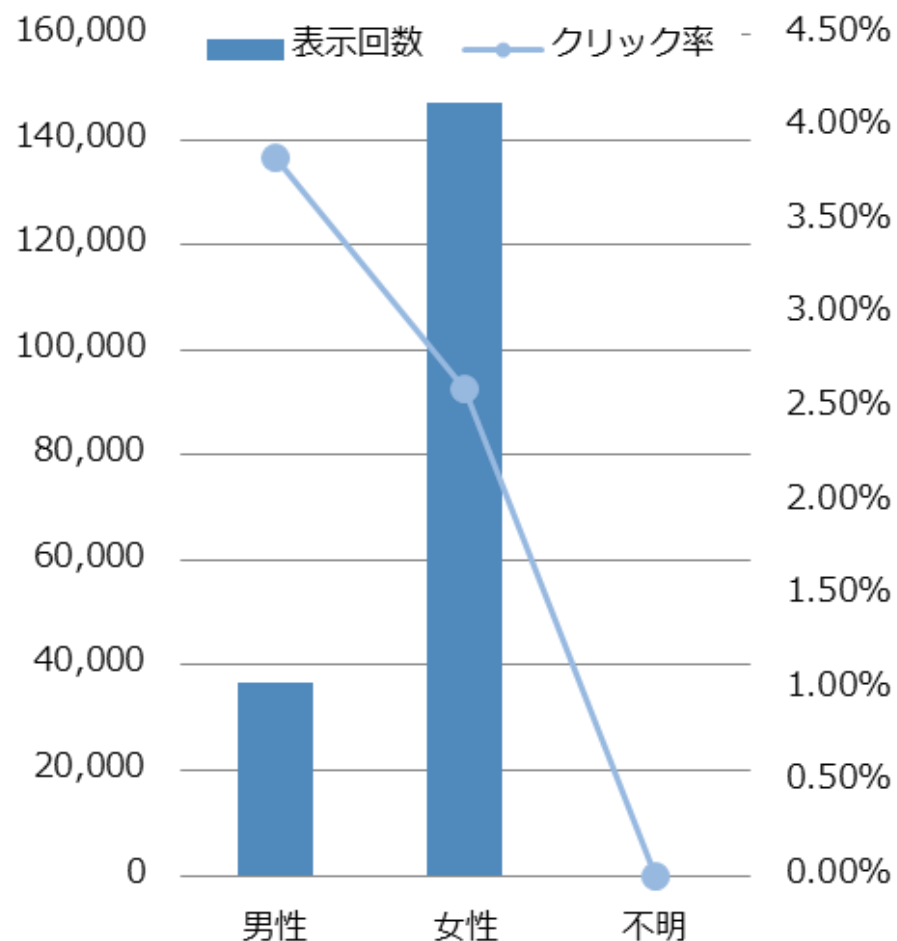


クリック数

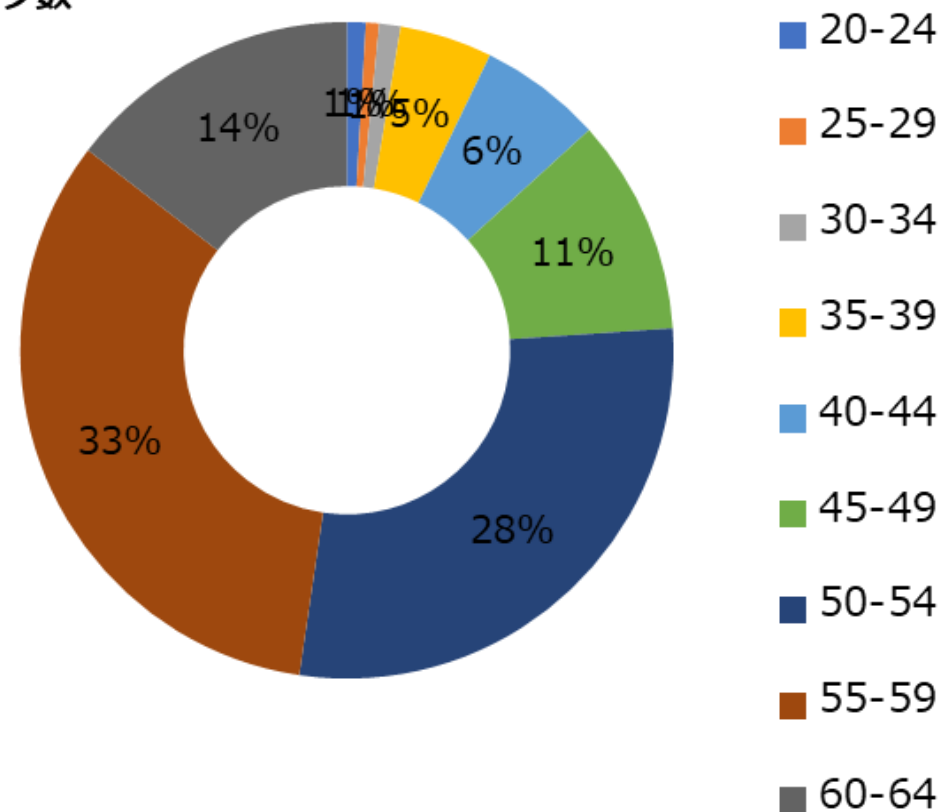


※2/1～2/12分抽出データ

媒体別広報実績（LINE広告内訳）



クリック数



広告実績まとめ

- 表示回数が多いのはMeta広告
- クリック率が高いのはGoogle広告
- どの媒体であっても女性が閲覧することが多い
- 全ての媒体で45～54歳の方につながる人が多い

進路実績

利用者（体験まで実施した者）の進路状況	人数
一般就労	1名
福祉的就労	2名
そのほか（利用休止等）	1名

【補足】 3月現在で就職活動中利用者が4名

課題

一般就労の進路決定事例がまだ少ない



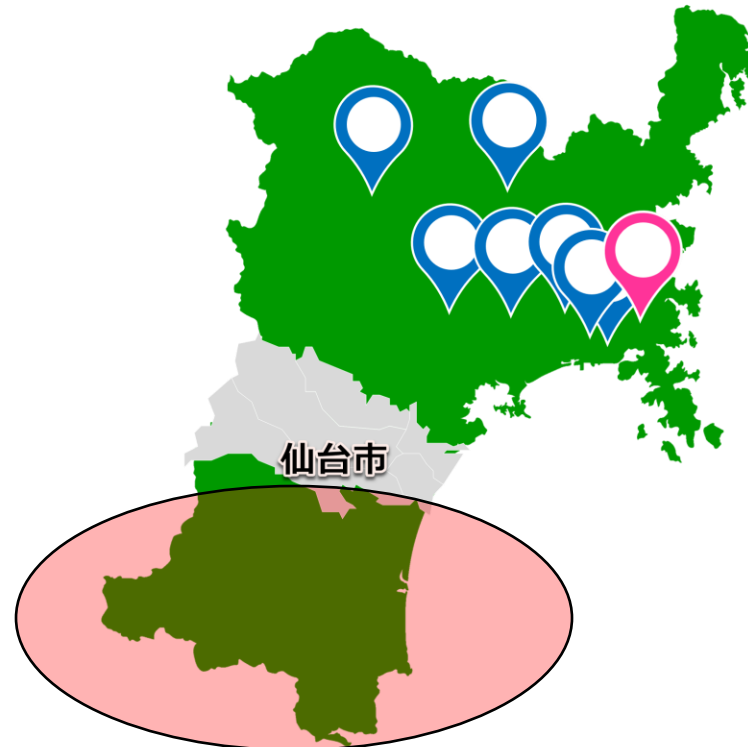
方向性も定まり就活するも
書類選考で不調が続くケース



面接まで進むが職歴がネック
となり不採用となるケース

課題

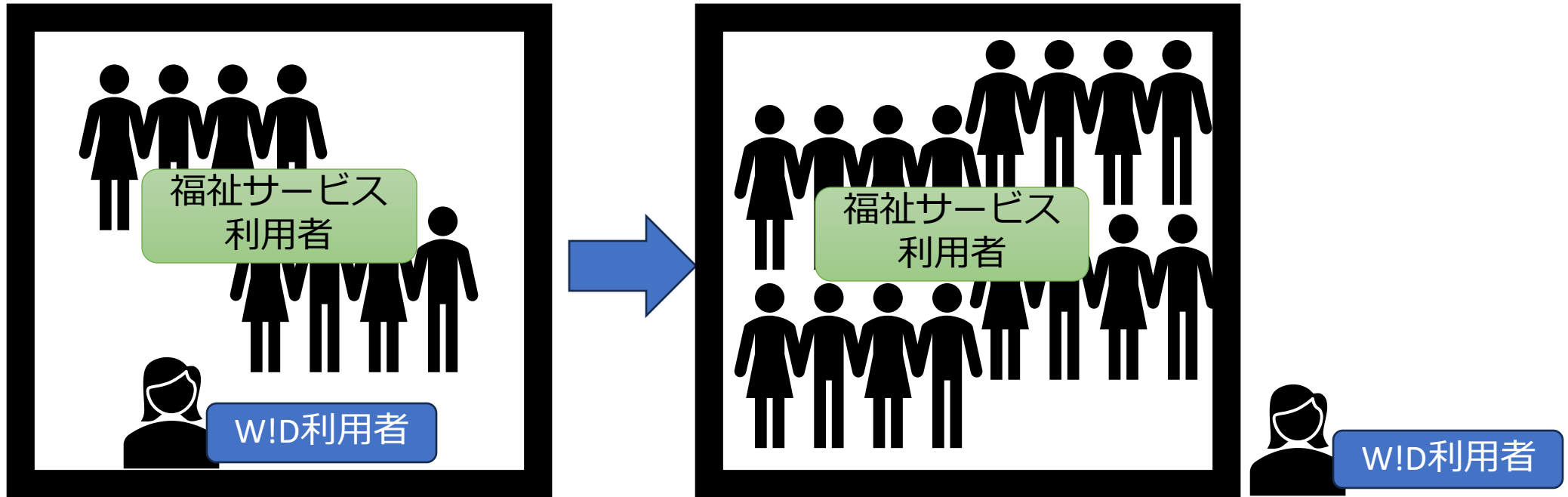
拠点事業所の少ない地域（宮城県南地域等）



県南では拠点事業所が少なく、県南地域の利用者が仙台の事業所に通所する傾向
交通費等の負担を感じる方も多い

課題

定員内でのW!D利用枠調整の難しさ



本利用開始時には定員の空きがあったが
3か月経過で拠点事業所の利用者が増え、W!D利用者の枠が減る・なくなる等の事例も

今後に向けて

支援力強化・就労困難者受け入れ連携企業の拡大

拠点事業所間での情報交換・意見交換の機会を作り、W!D利用者の支援力強化を図る
また、W!Dとの連携が進みつつある困難者受入の取り組みを実施している
Amazon Japanのような企業を増やし、多様な出口の創出を図る

拠点事業所の増加

事業所が少ない地域を中心に拠点事業所の登録数を増やし、
受け皿を大きくする取り組みを推進。
タイミングによって受入余力のある事業所への案内ができるようにすることで
安定的な利用が図れるようにする